

本日の実習目標

今日の実習マナーの振り返り

今日のインパクト(場面)

なぜこの場面が印象的だったのだろう？

この場面から考えられることは？

その人の思い・暮らし・サポートや制度などの視点から気づいたこと

指導者さんからのアドバイス

今日の学び(本日の実習目標に対して)

地域・在宅看護論実習Ⅰ 記録Ⅱ 「一人の対象理解を深めよう」

学籍番号（ ） 名前（ ）

学習活動	具体的な評価規準	観点	評価資料	評価基準			
				すばらしい	よい	もう少し	今一步努力を要する
対象との関わりからライフスタイル・時間の使い方や人間関係を聞く。	地域の対象の暮らし・思いがわかる。	対象理解 探求心	事前学習 在宅看護記録 面談 インパクトマップ	暮らしを営んでいる対象のライフスタイル（生活様式・方法・人生観・価値観・習慣などを含めた対象の背景や生き方）・時間の使い方や人間関係についての思いを対象の様子から知り、まとめを自己の言葉で表現できる。(30)	暮らしを営んでいる対象のライフスタイル(生活様式・方法・人生観・価値観・習慣などを含めた対象の背景や生き方)・時間の使い方や人間関係についての思いを対象の様子から知り、記載できる。(20)	暮らしを営んでいる対象のライフスタイル・時間の使い方について対象の様子から知り、記載している。(10)	暮らしを営んでいる対象の思いを表現している。(5)
地域で暮らしている対象の人との関わり・つながりについて考える。	地域で暮らしている対象の人との関わり・つながりについて理解できる。	対象理解 探求心	事前学習 在宅看護記録 カンファレンス インパクトマップ	家族との関係や家族以外の人とのつながり、地域とのつながりがわかり、具体例を挙げながら表現している。(20)	家族との関係や家族以外とのつながり、地域とのつながりがわかり、表現している。(15)	家族との関係や家族以外とのつながりがわかり、表現している。(10)	地域で暮らしている対象の人とのつながりを表現している。(5)
地域で暮らしている対象が活用・利用している制度やサポートを調べ表現する。	地域で暮らしている対象が活用・利用している制度やサポートがわかる。	対象理解 実践力 倫理観	在宅看護記録 カンファレンス 面談 インパクトマップ	地域で暮らしている対象が活用・利用している制度やサポートについて自ら調べ、また指導者に質問をし、対象の暮らしにおける必要性がわかる。(20)	地域で暮らしている対象が活用・利用している制度やサポートについて調べることができ、対象にとっての必要性がわかる。(15)	地域で暮らしている対象が活用・利用している制度やサポートについて調べることができる。(10)	地域で暮らす対象が何かしらのサポートを使っているのがわかる。(5)
地域での活動で倫理的規範をもち行動する。	地域での活動で、倫理的規範を持って行動できる。	調整力 探求心 倫理観	在宅看護記録 カンファレンス 面談 実習態度	各施設で、挨拶・時間管理・コミュニケーション・記録の取り扱いなどが適切にでき、適時、相談・報告が施設担当者・教員や学生同士で行っている。(30)	各施設で、挨拶・時間管理・コミュニケーション・記録の取り扱いなどが適切にでき、適時、相談・報告が誰かしらに行っている。(20)	各施設で、挨拶・時間管理・コミュニケーション・記録の取り扱いなどが適切にできる。(10)	各施設で、挨拶・時間管理・コミュニケーション・記録の取り扱いなどができず、看護の対象や仲間を危険に曝している。(0)

欠課時間

()時間／90 時間

	学生	指導者
中間評価	点	点
総合評価	点	点

担当教員サイン

訪問看護ステーション実習目標

実習（ ）グループ 氏名 _____
実習日 年 月 日～ 月 日

実習施設（ ）

1. 自分の実習目標

地域・在宅看護論実習の目標をふまえて、自分自身は何を学びたいのか表現する。

2. 訪問したいケースとその根拠

(具体的に記入する。)

* ボールペンまたは、濃い鉛筆で記入してください。

月 日 実習（ ） 日目

利用者情報

援助の目的・根拠・意味などについて考えたこと

利用者さん・看護師から学んだこと・気づいたこと

注目していること・気になること

本日の目標はどうであったか？

本日の目標

指導者さんからのアドバイス

次回の訪問へつなげたいこと

地域・在宅看護論実習Ⅱ 受けもち患者記録Ⅲ-1

学籍番号()名前()

常在条件（療養者・家族を含む）と病理的状态（訪問看護を受けるまでの病態や現在の病態・医師の指示や訪問の目的などを含む）

地域・在宅看護論実習での視点もプラス☆

例えば…年齢 性別 疾患名 既往歴 保健の種類 介護度（介護度以外の判定もあれば記載）主な介護者 年齢 性別 ⇒介護者の発達段階や問題点となりうること、居宅サービス計画書から本人・家族の療養生活への希望、療養者・家族の日・週間・月のスケジュールや利用しているサービス、療養環境や家族構成

受けもち療養者さんのニーズ なども含む

学籍番号（ ）氏名（ ）

看護の方向性

看護目標			
Aさんの目指す生活像（ さんには、以下のように生活してほしい・暮らしてほしい。）			
月日	優先順位 #	看護上の目指す事 （目指す生活に近づけるためには、以下の問題を解決したい）	解決月日
さんの訪問看護におけるケアのポイントや関わり、今後に必要な看護の方向性			

日付 月 日	日付 月 日	日付 月 日	日付 月 日	日付 月 日
対象者情報	対象者情報	対象者情報	対象者情報	対象者情報
行ったケア・1日の統合的な気づきや学び	行ったケア・1日の統合的な気づきや学び	行ったケア・1日の統合的な気づきや学び	行ったケア・1日の統合的な気づきや学び	行ったケア・1日の統合的な気づきや学び

【訪問看護ステーションでの学び】

[illegible]

月 日 実習（ ）日目 **実習施設**

施設・事業・利用者情報

援助の目的・根拠・意味などについて考えたこと

利用者さん・看護師から学んだこと・気づいたこと（在宅看護論実習とふまえて）

注目していること・気になること

本日の目標はどうであったか？

指導者さんからのアドバイス

次回の訪問へつなげたいこと

本日の目標

学習活動	具体的な評価基準	観点	評価資料	評価基準			
				すばらしい	よい	もう少し	今一步努力を要する
対象が利用している社会資源の説明が出来る。	対象が利用している社会資源の法制度・根拠を説明でき、状況の変化に応じて必要な社会資源を表現している。	対象理解 探求心	事前学習 在宅看護記録 面談	対象が利用している社会資源を制度・根拠を明確にし説明でき対象の変化に応じて必要な社会資源を説明している。(15)	対象が利用している社会資源を制度・根拠を明確し必要な社会資源を説明している。(10)	対象が利用している社会資源を一部説明できる。(7)	対象が利用している社会資源が提示できる。(1)
対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから目標を共有する多職種連携や協働がわかる。	対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから、多職種連携の共同目標と協働が対象の生活を支えることがわかる。	対象理解 探求心	事前学習 在宅看護記録 カンファレンス	対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから、多色連携や協働が対象の生活を支えていることがわかる。(30)	対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから、多職種連携や協働がわかる。(20)	対象が利用している社会資源から多職種連携や協働がわかる(10)	社会資源から多職種連携がわかる。(5)
対象を主体としたニーズ・支援とその生活を支える看護について理解する。	対象の特性と対象を主体としたニーズ・必要な支援や多様な価値観をアセスメントし、共同目標の中で生活を支える看護の方向性が表現できる。	対象理解 実践力 倫理観	在宅看護記録 カンファレンス 面談	対象の特性と対象を主体としたニーズ・必要な支援や多様な価値観をアセスメントし、対象の生活を支える看護の方向性がわかる。(25)	対象の特性と対象を主体としたニーズ・必要な支援や多様な価値観をアセスメントし看護の方向性を表現している。(20)	対象の特性と対象を主体としたニーズ・必要な支援や価値観をアセスメントしている。(7)	利用者または家族のどちらかの特性・ニーズ・必要な支援がわかる(1)
継続看護について多角的な視点を持ち、考えを深めている。	様々な場での看護の特徴・機能や対象から地域における継続看護・看護の役割について多角的に理解し、表現する。	調整力 探求心	在宅看護記録 カンファレンス レポート 面談	各施設での看護の特徴・機能や対象から、課題に対して生活者・他職種や看護師などの視点から多角的な視点で地域での継続看護・看護の役割について自己の言葉で表現する。(20)	各施設での看護の特徴・機能や対象から、課題に対して生活者・他職種や看護師などの視点から継続看護・看護の役割について記述する。(15)	看護の特徴・機能や対象から地域における継続看護・看護の役割についての中心となる考えをつかむことができる。(10)	対象から地域における継続看護または看護の役割について状況や特徴を説明することができる。(5)
看護の対象や仲間の尊厳、安全を護り、医療者として誠実に行動する	医療者として常に看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動がとれている	倫理観	日常行動 実習の様子 課題等提出物 出席状況 面接	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る為に適切な行動をとり、仲間の模範となりチームをけん引している。(10)	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動を心がけている。至らない時は学び、行動を変えている。(7)	看護の対象や仲間の尊厳、安全を護るという点で自己の行動を振り返っている。(5)	自分の行動が看護の対象や仲間を危険に曝している。(0)

欠課時間

()時間／90 時間

	学生	指導者
中間評価	点	点
総合評価	点	点

実習指導者サイン

担当教員サイン